

『JVA 2019 年年間統計調査結果』について

当協会の業務部会マーケット調査グループは、2019年1月～12月のビデオソフトの出荷についての統計調査を『日本映像ソフト協会統計調査報告書 Vol.89』にまとめました。

つきましては、ここに結果の抜粋となりますが2019年の統計調査結果についてご報告いたします。

なお、本報告書は一般の方にも有料にて頒布しております。

本件のお問い合わせにつきましては、広報課(03-3542-4433)まで、または、協会ホームページの「お問い合わせ」にアクセスしてください。

以 上

2019年（1月～12月）の実績について

1. 2019年のビデオソフトの総売上は1590億9300万円で前年比89.3%となった。上半期は775億7600万円で前年同期比90.3%、下半期が815億1700万円で前年同期比88.4%だった。

ビデオソフトの総売上金額をメディア別に見てみると、ブルーレイ（Ultra HD ブルーレイを含む。以下同様）は850億9700万円で前年比99.1%と僅かに前年を割り込む程度となったが、DVDビデオが739億9600万円で前年比80.2%と2割の減少となった。DVDビデオの売上の減少によってブルーレイの構成比が53.5%と高まり、初めて過半に達した。

<添付資料 表1>

2. ビデオソフト全体の売上金額を流通チャネル別の構成で見ると、販売用、特殊ルート、レンタル店用、業務用の割合は、81.6対0.3対17.6対0.5となり、販売用の割合が市場の8割強となった。

<添付資料 表4>

3. 販売用全体（DVDビデオとブルーレイの合計）の売上金額は1298億7600万円で、前年比91.5%と前年を割り込んだ。そのうちブルーレイは816億3000万円で前年比99.3%、DVDビデオは482億4600万円で前年比80.7%となった。販売用全体に占めるブルーレイの売上金額の構成比は62.9%となり6割を超えることとなった。

<添付資料 表5>

販売用全体の売上金額をジャンル別に見てみると、2018年に日本の映画興行収入で1位となった『ボヘミアン・ラプソディ』等がリリースされた構成比3位(11.6%)の『洋画(TVドラマを除く)』が前年比106.6%と売上を伸ばし健闘した。一方、構成比1位(37.9%)の『音楽(邦楽)』は、昨年『安室奈美恵/namie amuro Final Tour 2018 ~Finally~』等がリリースされ大きく伸長した反動もあり前年比80.4%と大きくダウンした。また、構成比2位の(24.9%)『日本のアニメーション(一般向け)』は前年比99.2%、4位(5.4%)『邦画(TVドラマを除く)』が同99.2%と僅かに前年にとどかず、5位(5.3%)の『日本のTVドラマ』は同93.7%と前年を下回った。

各ジャンルの売上金額におけるブルーレイの割合は、『日本のアニメーション(一般向け)』が82.1%(前年80.7%)、『洋画(TVドラマを除く)』が80.9%(同76.4%)、『邦画(TVドラマを除く)』が55.0%(同50.8%)、『音楽(邦楽)』が55.2%(同49.1%)となり、主だったジャンルにおいてはブルーレイの比率がますます高まってきている。

<添付資料 表7>

4. ブルーレイの販売用の売上金額をジャンル別に見てみると、構成比2位(32.5%)となった。『日本のアニメーション(一般向け)』は前年比100.9%、3位(15.0%)の『洋画(TVドラマを除く)』は同112.8%、4位(4.7%)の『邦画(TVドラマを除く)』も同107.4%と前年を上回ったが、1位(33.3%)の『音楽(邦楽)』が、前年リリースのビッグタイトル『安室奈美恵/namie amuro Final Tour 2018 ~Finally~』の影響を受け前年比90.4%と1割の減少となり、これが大きく影響し、全体の売上は僅かに前年に届かなかった。

<添付資料 表7>

5. DVDビデオの販売用の売上金額をジャンル別に見てみると、構成比1位(45.8%)の『音楽(邦楽)』が前年比70.9%と前年を大きく下回り(ブルーレイ同様に前年リリースの『安室奈美恵/~Finaly』の影響が大きいと思われる)、2位(12.0%)の『日本のアニメーション(一般向け)』は同91.9%、構成比3位(7.7%)の『日本のTVドラマ』も同98.0%、4位(6.7%)、『芸能・趣味・教養』も同93.5%、5位(6.5%)の『邦画(TVドラマを除く)』も同90.8%となり、主要なジャンルがいずれも前年を下回った。

<添付資料 表7>

6. レンタル店用全体(DVDビデオとブルーレイの合計)の売上金額は279億5700万円で、前年比80.1%と前年を大きく下回った。売上金額全体に占めるDVDビデオの割合は89.3%で、249億6900万円、前年比79.1%だった。

<添付資料 表5>

DVDビデオのレンタル店用のジャンル別売上金額では、構成比1位(21.4%)の『洋画(TVドラマを除く)』は同90.3%、2位(17.5%)の『邦画(TVドラマを除く)』が同86.5%、3位(17.1%)の『日本のアニメーション(一般向け)』が同77.3%、続く『アジア

のTVドラマ』(14.3%)が同74.8%、『海外のTVドラマ』(10.5%)が同68.0%と、主だったジャンルが大きく前年を割り込んだ。

ブルーレイのレンタル店用の売上金額は29億8800万円で前年比89.2%だった。ジャンル別売上金額では、構成比2位の『邦画(TVドラマを除く)』(構成比29.3%)は前年比104.2%と健闘したが、全体の58.2%を占める『洋画(TVドラマを除く)』が同89.3%と割り込み、全体の前年割れに影響をした。

売上金額におけるブルーレイの割合が最も高いのは『洋画(TVドラマを除く)』で、売上金額の24.6%を占めた。
<添付資料 表8>

7. 売上金額を売上数量で割って単純に求めた1枚当たりの単価を見てみると、DVDビデオの販売用の平均単価が3,594円で前年比97.5%となったが、売上構成比の高い『音楽(邦楽)』の単価の低下(4,732円、前年比96.9%)の影響が大きいと思われる。ブルーレイの販売用は5,611円で同102.8%と上昇した。

DVDビデオの『レンタル店用』の平均単価は1,499円となり前年比102.1%と上昇、『海外のTVドラマ』、『アジアのTVドラマ』の単価上昇が影響したとみられる。ブルーレイの『レンタル店用』の平均単価も1,744円で前年比103.5%と上昇、こちらは『邦画(TVドラマを除く)』の単価上昇(2,254円、前年比130.5%)が影響したとみられる。

<添付資料 表6>

以上

追記

<本統計調査報告についての注意点>

- 本報告は、JVA 会員社が発売、販売する自社作品および他社作品の出荷段階の売上をまとめた統計である。
- 返品分は金額、数量とも調査時点において差し引いている。
- DVD とブルーレイのコンボ作品はブルーレイにカウントしている。
- 「日本の子供向け(アニメーション)」などにある“子供向け”とは、目安として9歳以下の子供を対象とした作品のこと。
- ブルーレイの売上にはUltra HD ブルーレイの売上を含む。
- 「特殊ルート」とは、雑誌やコミック、食玩などとして他商品に付帯されるものの売上のこと。